

女性防災の必要性

伊藤 沙帆 明德義塾高2年

「防災」という言葉を知らない人はいないが、「女性防災」という言葉を知っている人は、少ないのではないだろうか。つづり通り「女性に視点を当てた防災を考える」ことを意味している。

私は学校で防災委員をしており、受講した講座をきっかけに「女性防災」という言葉を知った。なぜ「女性」という2文字を付け足す必要があったのか。それはこれまで「防災」の考え方が男性目線で見られがちで、女性ならで

はの問題に焦点が当てられていなかったからだ。

そのため避難生活、復興への過程で、さまざまな女性ならではの問題が生じてきた。

たとえばトイレや生理用品が挙げられる。避難所の運営は男性が多く、生理用品が備蓄されていて受け取りにくく、我慢するケースがある。

東日本大震災では女性への性被害、暴力も起こった。女性に負担がかかることで、ストレスや災害関連死につながる恐れもある。

女性の意見が反映されない、声を上げることもできない社会は昔のことで、現在は少しずつ変わりつつある。

日本は災害大国であり、南海トラフ巨大地震もいつ起きてもおかしくない。「防災」への意識が高まる今だからこそ、これまでの既存の考えただけでなく女性からの視点にも焦点を当ててほしい。

私自身、知識を身につけいざという時、女性や弱者が取り残されることのない防災活動をしていきたい。